

豊前岩戸神楽三拾三番（山内神楽）

所在地 豊前市大字山内

時期 春祭四月十四日、十五日

秋祭十月十二日、十三日

一

当地は周防灘の豊前海岸から、南へ約七キロあり、犬ヶ岳から派生する東西南方向の山が帯状に周防灘に延びている。その西側の山麓と、中央部の平坦地からなり、戸数七十余戸の農山村地域である。近くに修験場として名高い求菩提山がそびえ、地区内には、如法寺、明泉寺、嘯吹八幡神社などの社寺があり、古くからの諸行事や、民俗芸能が残されている。

山内神楽は五十九代宇多天皇の寛平二庚戌年（八九〇）から、当地嘯吹八幡神社の社家に、伝承されて来たとされ、豊前岩戸神楽系統のものである。古くは、神職をはじめ、巫子、宮守によって舞われていたが、明治維新以降（明治二年）は、山内神楽講社員によって舞われている。

春祭は清原神事の初日に本宮（嘯吹八幡神社）から、浮宮（清原）までの渡行する。翌日の還行の夫々のお立ち、お着きの時、神楽（式御先、岩戸神楽等）が舞われ、特に清原では湯立神楽が奉納される。

秋祭は十月十三日に嘯吹八幡神社の拝殿（舞所）と湯庭で、神事のあと、式神楽と奉納神楽（家庭における祝事など願って、氏子が奉納する神楽）が行われる。

二

山内神楽は、式神楽（十五番）、奉納神楽（十五番）、湯立神楽（三番）からなりたっている。

式神楽

1. 大祝詞事 (直面神楽) 全員
2. 一番神楽 (直面神楽) 四人舞
神楽始めの、四方祓いの舞
3. 花神楽 (直面神楽) 四人舞
汐花神楽とも言う、清めの舞
4. 笹神楽 (直面神楽) 一人舞
笹葉を手に持ち、悪魔除けの舞
5. 式御先神楽 (着面神楽) 二人舞
天孫降臨の神々の御先祓いの舞
6. 弓正護神楽 (直面神楽) 四人舞
弓矢を持って、悪魔祓いの舞
7. 地割神楽 (直面神楽) 六人舞
中央及び四方の、守護神を定め、国産み事業の舞
8. 思兼之命舞 (着面神楽) 一人舞
天の岩戸前に、八百萬の神々を集め、知恵を授ける舞

9. 八重垣之命舞 (着面神楽) 一人舞
悪霊祓いの舞
10. 布刀玉之命舞 (直面神楽) 一人舞
天の香具山の榊に、御鏡を付け、大神に捧げる舞
11. 天兒屋根之命舞 (着面神楽) 一人舞
弓矢を持って、正護の神楽舞
12. 玉祖之命舞 (着面神楽) 一人舞
榊の上枝に句玉をつけ、中枝に八岐の鏡をつけ、下枝に五百津の御須麻流の飾りをつけての舞
13. 天之鈿女之命舞 (着面神楽) 一人舞
天の香具山の、小竹葉を手房に結んで、桶を踏み響かしての舞
14. 手力男之命舞 (着面神楽) 一人舞
岩戸の側にかくれて、岩戸を開く舞
15. 神送り (思兼之命) (着面神楽) 一人舞
神髓幣を神前に捧げる舞
- 奉納神楽**
16. 幣正護神楽 (直面神楽) 三人舞
清めた奉幣に、神降しを行う舞
17. 三神神楽 (直面神楽) 三人舞
海の幸、野の幸、山の幸を、喜び合う舞
18. 四人剣神楽 (直面神楽) 四人舞
19. 二人剣神楽 (直面神楽) 二人舞
四方の、悪魔祓いの舞
天地の、悪霊を祓う舞
20. 剣神楽 (直面神楽) 一人舞
悪霊を祓う舞
21. 盆神楽 (散末) (直面神楽) 一人舞
五穀成就を祝う舞
22. 綱御先神楽 (直面、着面) 神楽四人舞
天之鈿女之命が、蛇を使って、猿田彦之大神と戯れながら、五穀豊穰を願う舞
23. 二人手草 (直面神楽) 二人舞
掛歌を合せる、優雅な舞
24. 乱御先神楽 (直面、着面) 神楽四人舞
御先神楽を二組にした神楽で、四季の五穀豊穰を祈願する舞
25. 地堅神楽 (直面神楽) 四人舞
御宝屋を堅める舞
26. 本地割神楽 (直面神楽) 六人舞
地割神楽に準ずる舞
27. 神迎神楽 (直面、着面神楽) 五人舞
神々を迎える舞 (外神楽)
28. 大蛇退治 (直面、着面神楽) 九人舞

須佐之男命が、大蛇を退治する舞

29. 柴入神楽 (直面神楽) 四人舞

天の岩戸前で、香具山の櫛を持つての舞で、火鎮めの舞とも言ふ。

30. 天之安河原の集い (直面神楽) 七人舞

天之安河原に、八百萬の神々が集い、神譏する舞

湯立神楽

31. 湯立神楽 (直面神楽) 三人舞

中央、東方、西方、南方、北方の湯庭祓いの舞

32. 湯御先神楽 (直面、着面神楽) 二人舞

御先神楽のあと、齋鉢に昇り、雲手切りして、天神を迎える舞

33. 火鎮神楽 (直面神楽) 二人舞

日本國中、三千百三十二座の神々を勧請し、火鎮め、湯鎮めのあと、火渡り行事を行い、五穀豊穰を祈願する舞

御先神楽は、豊前岩戸神楽三拾三番の中で、最も特色のある演目の一つである。これを大型化したものが、神迎神楽や、湯立神楽であり、他の神楽の随所に、御先神楽の舞が出る。非常に勇壮な舞であり、鬼(猿田彦之神)の荒々しさと、幣方(天之細女之命)の優雅さが調和された見応えのある神楽である。

五番 式御先神楽(着面、直面神楽)

御先(装束) 毛頭、鬼面、狩衣、二又袴

(採物) 鬼杖、扇

幣方(装束) 烏帽子、狩衣、袴

(採物) 大幣、鈴又扇

五段囃子で始める。幣方が一人出る。神前に拝礼、二拍手。神楽囃子となる。幣方、大神楽を舞う。終つて御先囃子となる。鬼が出て、楽屋口で「シコ」をする。力みながら、右手の扇を出し、左手の鬼杖を出しつつ三歩進む。三回繰返し、四回目に楽屋に向い「シコ」をする。五回目は、鬼杖を廻して行き「シコ」をする。幣方と押廻しをし、別れて「シコ」をする。幣方は鬼の後方につく。鬼は力みながら、左出し右出ししながら一廻りをする。幣方は鬼の後につき、扇出し幣出ししながらついで行く。正面で鬼は「シコ」をする。幣方は小廻りして、鬼のあとについて廻り、二人共に、角より楽屋口にさがる。幣方は、その儘、楽屋内に引き込む。鬼一人で方がかりをする。三方に行い終りに神前からかかり、楽屋口にさがる。幣方が出る。鬼がこれを見て「シコ」をして、二人で肩を組む。別れて今度は、幣を見せ扇を見せて楽屋口にさがる。次に幣方、扇の手で、鬼の行手を止める。向きをかえて進むのを、幣の手で止める。鬼、幣方と共に神前にて「ヨト」「ヨト」を行う。次に幣方と力押しをする。鬼が向う側に打つて行く。幣方は折返し「シコ」をする。二人肩を組む。幣方一度引込みをするが、すぐ引返す。今度は鬼が力みながら、引込みをするが、又引返す。神前にて二人で方がかり。

終つて、鬼は幣方を押し廻し別れて打ち返す。幣方は鬼をかかえて、楽屋口にさがる。鬼は向う角に打って行き、今度は二人で幣を大きく廻して打返し「シコ」をする。終つて二人肩組みをし、楽屋口で別れる。鬼は参拝者を相手に戯れる。幣方、鬼を納める。二人で「唱行」を稱える。

(幣方) 清高や、清静かなる豊の内、尚、静かなれ、御宝屋の内
御宝にて、打ち驚かして、さおのむち太鼓、声よし、笛、
よかりしに

(御先) 御宝屋の、しげみひらけし、これの地に、魔王のもの
住むそ、あやしき

(幣方) 逢ふ坂や、関ふさがりて、道なくそ、御幣持ちたる、神
主にとえ

(御先) ちしやのや、ちしやのろうにて、せりこめて、かねのく
さりて、つなぎとめおく

(幣方) 神屋たち、道も、こみち多くとも、中なる道が、神のこ
の道

(御先) 神ましや、なにわのよしや、葦原の、国のはじめの、道
はひとすじ

終つて、神楽囃子となり、幣方一人で、大神楽を舞う。幣を鬼に渡す。御先囃子にわかり、鬼は幣を受けて、大神楽を舞い、幣を返す。二人、楽屋口に力んで進む。一度打ちかけてさがり、神前に拝礼して退場する。

囃子は、太鼓、笛、チャンカラ(すり鉦)の三種類の楽器を用い、次のような囃子方がある。

1. 五段囃子(並調子で、出囃子とも言う)
2. 神楽囃子(稍々早調子で、神楽調子とも言う)
3. 御先囃子(強く早調子)
4. おつとめ囃子(大祓奉上の時)

更に神楽によつて、次の囃子が入る。①足拍子 ②正護囃子 ③
細女囃子 ④猿囃子 ⑤道中囃子(大囃子、小囃子)

三

山内神楽は、千百余年の、長い歴史の中で、郷土の生活と共に根づいて来た。里神楽であり、今日、尚、神楽歌、謂議、唱行等が多く残されている。舞には、大変優雅な舞や勇壮な舞があり、囃子にも独特のリズム、音色があり、人の心はずませる、すばらしいものをもっている。

参考文献

○築上郡史



図版36 山内神楽

No. 73	名 称	位登八幡神社獅子舞		市町村名	田川市
芸態種別	神 楽 ②	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川市大字位登		伝承組織	位登八幡神社獅子舞保存会	
上演場所	位登八幡神社		上演期日	新暦 4月、正月	
<p>《芸能の概要》 大人獅子（親獅子）と子供獅子の頭と尾に一人がついて計4人で舞う。おはやしは笛、太鼓、チョンビシを用いる。</p>					
文書：			文献：		

No. 74	名 称	春日神社岩戸神楽		市町村名	田川市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(県)平 3.11.15	詳細調査No.	
伝 承 地	田川市宮尾町春日神社を中心に見立、弓削田、川宮地区		伝承組織	春日神社岩戸神楽保存会	
上演場所	田川市、田川郡、京都郡、行橋市		上演期日	新暦5月第4土・日曜日、10月30日、7月下旬	
<p>《芸能の概要》 この神楽には、清拔之舞、五行之舞、土神・風神之舞、花神楽之舞、御敷斗之舞、榊之舞、弓舞、方位鎮之舞、鎮之舞、両鬼之舞、四鬼神之舞、先駆之舞、猿田彦之舞、岩戸之舞がある。</p>					
文書：			文献：田川市史（民俗編）		

No. 75	名 称	風治八幡神社川渡行事		市町村名	田川市
芸態種別	風 流 ④	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.	
伝 承 地	田川市大字伊田 風治八幡神社		伝承組織	八幡神社氏子	
上演場所	田川市大字伊田 風治八幡神社、彦山川		上演期日	新暦 5月16,17日	
<p>《芸能の概要》 16日正午から彦山川のほとりの社で祭典があり、対岸の旅所へ向かって発輿が行われる。御輿が川瀬に入ると、対岸からの迎えの山車とこちら側からの随行の山車が彦山川にのり込む。山車は、社屋の上に幟、幣花をつけた幟山笠五本、屋形に囃子をのせた踊山笠五本があり、上中下伊田地区から奉仕される。約1時間川中で神輿等が練り廻る。旅所に一晚の通夜があり、番田河原唄や猫迫区の奉仕による獅子舞楽がある。翌日の還幸も同様の川渡りがある。</p>					
文書：			文献：福岡県の民俗芸能		

No. 99	名 称	風浪宮例大祭		市町村名	大川市
芸態種別	風流 ⑤	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	風浪宮		伝承組織	各町内	
上演場所	風浪宮境内		上演期日	新暦 1月29日に近い土日曜日	
<p>《芸能の概要》 この例大祭は古式にのっとして極めて厳粛に行われ、筑後三大祭の一つに数えられている。祭りは3日間行われ、1日目は舳先祭、おたち祭、稚児行列、2日目は汐井くみ、神幸祭典、汐井まいり、御神幸、下宮祭典、やぶさめ、3日目は例大祭祭典（本殿で浦安の舞）、奉賛祭（産業振興祭・交通安全祈願祭）がある。</p>					
文書：			文献：大川風土記、大川市誌		

No.100	名 称	今井神楽		市町村名	行橋市
芸態種別	神楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	行橋市大字今井		伝承組織	今井神楽講	
上演場所	熊野神社		上演期日	新暦 4月中旬	
<p>《芸能の概要》 米まき、小神楽（一の切、二の切）、手草、盆神楽、花神楽、地割り、御崎、岩戸（思金、太玉、児屋根、うずめ、手力男）の演目がある。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No.26		

No.101	名 称	下正路神楽		市町村名	行橋市
芸態種別	神楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	行橋市下正路		伝承組織	下正路神楽講	
上演場所	大橋神社		上演期日	新暦 5月15日	
<p>《芸能の概要》 米まき、折居、三富、五行の舞、五本剣、手草、弓神楽、花神楽、御崎、四ッ鬼、綱御崎、おしきの舞、戸前（天津児屋根、太玉、石古疑、玉ノ屋、うずめ、手力男）の演目がある。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No.26		

No.102	名 称	出 屋 神 楽		市町村名	行 橋 市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	行橋市大字稲童字出屋		伝承組織	出屋神楽講	
上演場所	安浦神社		上演期日	新暦 正月	
<p>《芸能の概要》 米まき、美富、手草、五行、御崎、両鬼、盆かぐら、花神楽、天岩戸（思金、児屋根、武見加津知、うずめ、手力男）の演目がある。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No.26		

No.103	名 称	道 場 寺 神 楽		市町村名	行 橋 市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	行橋市道場寺		伝承組織	道場寺神楽講	
上演場所	北山神社		上演期日	新暦5月9,10日,10月8,9日に近い土,日曜日	
<p>《芸能の概要》 米まき、四人神楽、美福、手草、地割り、神撰の舞上げ、御崎、花神楽、盆神楽、一人剣、四方鬼、戸前神楽（思金、天津金富、太玉、うずめ、手力男）、湯立、遷宮の演目がある。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No.26		

No.104	名 称	徳 永 神 楽		市町村名	行 橋 市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	行橋市徳永		伝承組織	徳永神楽講伝承会	
上演場所	所吉神社		上演期日	新暦 5月2日、10月8日	
<p>《芸能の概要》 この神楽は、祝詞奏上、米まき、四人神楽、田草、地割り、おしき舞、六本剣、みさき舞（一）、みさき舞（二）、みさき舞（三）、太様、うずめ、岩戸からなる十三番の演目にまとめられている。かつては「湯立神楽」の演目も加えられていたが、現在は行われていない。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No.30		

No.105	名 称	下 稗 田 神 楽		市町村名	行 橋 市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	行橋市下稗田		伝承組織		
上演場所	大分八幡神社		上演期日	新暦 5月 5日、10月12日	
<p>《芸能の概要》 熊まき、美福、剣、土神、風神、奉幣、御崎、手草、両鬼、岩戸(思金、太玉、児屋根、武見加津知、うずめ、手力男)、湯立の演目がある。</p>					
文書：			文献：美夜古文化No26		

No.106	名 称	検 地 楽		市町村名	行 橋 市
芸態種別	風 流 ①	指定年月日	(県) 昭51. 4. 24	詳細調査No. 29	
伝 承 地	行橋市大字検地 王埜神社		伝承組織	検地地区	
上演場所	王埜神社を中心とした各地		上演期日	新暦 5月 3,4日	
<p>《芸能の概要》 楽打ちは、宮柱の指揮のもと親楽といわれる2人の青年の太鼓打ちと壮年の笛吹き2人のほかは言上申立人1人(小学生)、8~12歳の太鼓打ち10人、4~7歳の鉦打ち10人の男の子が勇壮に打ち鳴らす。子供達は浅黄染め抜きのユカタ、手甲、脚絆白タビ、タスキ姿に頭にはニワトリの尾の羽をつけるので、一名「ニワトリ楽」ともいわれる。</p>					
文書：			文献：行橋市の文化財、下検地区の楽打ち		

No.107	名 称	豊 前 岩 戸 神 楽		市町村名	豊 前 市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	豊前市大字岩屋		伝承組織	岩屋神楽講	
上演場所	神社境内、神楽殿		上演期日	新暦	
<p>《芸能の概要》 祭典後、式神楽12番と崇敬者の奉納神楽がある。囃子方は9名以上で太鼓、笛、すり鉦を使い、9種類の囃子がある。舞人の装束としては、わらじ、狩衣、烏帽子、袴、面、毛頭、扇、鈴、大刀、天冠、幣、鬼杖、白衣、白足袋がある。歌の掛け合いだけの神楽「掛手草」があり、これは一首を上句と下句に分けて二人が連歌の形式で読みあげるものである。歌は28種あって、はじめの10種は「手草」を読みこんでいる。あとは山、川、海の神に関する古書にある神楽歌やもどき歌である。当地方では「駈仙」に現在「杖渡し」はない。上演期日は3月29日、4月13、27日、5月8日、10月10、13、15、16、17日、11月21、27、28日、12月6日、隔年5月3日、9月末、10月13日である。</p>					
文書：			文献：		

No.108	名 称	豊前岩戸神楽		市町村名	豊前市
芸態種別	神楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	豊前市大字大村 今比羅社		伝承組織	大村神楽講	
上演場所	神楽殿、拝殿、座敷、ステージ		上演期日	新暦	
<p>《芸能の概要》 祭典終了後、式神楽12番、奉納神楽21番がある。舞人は9名で、面、装束、烏帽子、御幣、毛頭、鈴、ワラジを使う。囃子方は笛、太鼓、チャンカラの3名で構成されている。上演期日は、8月30日、9月1,5日、10月15,19,20,23,25日、11月23日、12月7,11日である。</p>					
文書：			文献：		

No.109	名 称	豊前岩戸神楽		市町村名	豊前市
芸態種別	神楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	豊前市大字久路土 石清水八幡神社		伝承組織	黒土神楽講	
上演場所	神社境内、拝殿		上演期日	新暦10月18日	
<p>《芸能の概要》 式18番と奉納神楽15番で構成されている岩戸三十三番神楽で、演目には式一番、花、手笹、御先、弓正護、地割、岩戸等がある。囃子方は太鼓、横笛、カネの3名、舞人は6名からなり、神楽面、扇子、鈴、御幣、刀等を演目により使う。御先神楽を中心とした神楽で、村人に密着した里神楽である。</p>					
文書：			文献：		

No.110	名 称	豊前岩戸神楽(中村神楽)		市町村名	豊前市
芸態種別	神楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝承地	豊前市大字中村 角田八幡神社		伝承組織	中村神楽保存会	
上演場所	角田八幡神社拝殿		上演期日	新暦11月26日	
<p>《芸能の概要》 現在は33番中、式神楽、地割、四人剣、御先、乱御先、一人剣、神迎、四鬼、岩戸開き、花神楽が奉納されている。装束は白垢、赤の手ぬきが共通で、それぞれの役により扮装する。式神楽、地割、四人剣、一人剣以外は面をつける。囃子方は太鼓1人、チャンカラ2人、笛1人で構成するが、現在笛はテープで行っている。</p>					
文書：			文献：		

No.111	名 称	豊前岩戸神楽	市町村名	豊前市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.
伝 承 地	豊前市大字三毛門 春日神社	伝承組織	豊前岩戸神楽三毛門保存会(三毛門神楽講)	
上演場所	春日神社神楽殿	上演期日	新暦12月第1土曜日	
<p>《芸能の概要》 吉富町古表神社宮司により祭典が行われ、神楽が奉納される。演目は式神楽が大萩、一番神楽、花神楽、手房、弓正号、地割、馳仙、岩戸(思兼、四方鬼、四方鬼退治、長白羽命、太王命、鈿女命、太刀玉命)、奉納神楽が馳仙、二人手房、四人剣、剣神楽、盆神楽、三神神楽、蛭神楽、乱馳仙、神迎、山田大蛇、湯立がある。</p>				
文書：		文献：		

No.112	名 称	豊前岩戸神楽三拾三番	市町村名	豊前市
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No. 30
伝 承 地	豊前市大字山内	伝承組織	豊前山内神楽社中(講)	
上演場所	各神社境内(神楽殿、拝殿、仮設舞台)	上演期日	新暦 4月、10~12月	
<p>《芸能の概要》 神楽は式神楽、特殊神楽、湯立に大別され、全体として33番神楽からなっている。神楽役には取締方、楽方(囃子)、舞方があり、取締り方がすべてを取りはかっている。楽方は3名以上で太鼓、笛、すり鉦を用い、神楽の内容に応じて12種類の囃子が行われ、舞い方は直面、着面により各神楽によって衣裳及び取物がある。山内神楽は品行、神楽歌、いいぎ等があり、優雅な舞いとして保存されている。</p>				
文書：		文献：嘯吹八幡神社縁起、矢幡文献		

No.113	名 称	求菩提山のお田植祭(松会)	市町村名	豊前市
芸態種別	田 楽	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.
伝 承 地	豊前市大字求菩提 国玉神社	伝承組織	求菩提山のお田植祭保存会	
上演場所	国玉神社境内	上演期日	新暦 3月29日	
<p>《芸能の概要》 祭りの前日中宮から御仮屋に神幸(オタグリ)が行われ、当日は神楽が奉納された後、御田植祭祭典が始まる。田行事は農作業をユーモラスな所作で演じるもので、草刈り、田鋤き、田打ち、大田主、種子蒔き、田植、うなり、田誉めの順に行われる。江戸時代末までは幣切り行事が行われていたが、現在では行われていない。</p>				
文書：		文献：豊前求菩提の行事、求菩提山民俗資料緊急調査報告書、豊州求菩提山修験文化考		

No. 241	名 称	宝満神社奉納能楽		市町村名	高 田 町
芸態種別	舞台・渡来芸①	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.	
伝 承 地	三池郡高田町大字北新開		伝承組織	新開能保存会	
上演場所	宝満神社		上演期日	新暦10月17日	
<p>《芸能の概要》 もと梅津（玉垂宮の能芸師）の指導によったものであると思われ、喜多流に属する。面は65点、衣装78点あり、これらは二代柳川藩主の夫人が奥州伊達から持参したと伝えられ、昭和になり立花家から譲り受けられている。はやし方は中老年、老人が楽屋の衣装方をなす。奉納は現在午後3時から夜の10時頃まで行われている。農民能として全国でも有名な能である。</p>					
文書：			文献：高田町誌		

No. 242	名 称	津 野 神 楽		市町村名	添 田 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川郡添田町大字津野		伝承組織	津野神楽保存会	
上演場所	添田町津野 下高木神社		上演期日	新暦5月2日夜、5月4日夜	
<p>《芸能の概要》 この神楽は岩戸神楽の形式で、三十三番の神楽があり、装束、面、採物も本来の岩戸神楽と相違ない。伝えによると豊前岩戸神楽の系譜で、犀川の神楽から伝承されたと言われる。鳴物には、大太鼓、笛、銅拍子があり、これらの奏楽で舞う。</p>					
文書：			文献：		

No. 243	名 称	英彦山神宮御田植祭		市町村名	添 田 町
芸態種別	田 楽	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川郡添田町大字英彦山		伝承組織	英彦山神宮	
上演場所	添田町英彦山神宮		上演期日	新暦3月15日	
<p>《芸能の概要》 古来は旧暦の2月13日～15日に行われる松会記念祭のなかで、神幸祭の御輿が還御して庭に着くと行われる行事であった。稲の豊穰を記念するもので、境内に設けた仮田の中で、氏子8名により、1 鍬入れ 2 畝切り 3 田打ち 4 畦切り 5 馬把 6 杵 7 種蒔き 8 田植え 9 飯戴汁戴の所作を執り行なう。1の鍬入れ行事には「洲壤乃広企荒野乎田爾成而鍬乃御銚爾露乃玉米」、5の馬把行事には「魂乎猶濃爾碎止而教乃馬把爾八束穂乃稻」の詩歌がある。飯戴汁戴は妊み女が頭に飯汁を乗せて登場するが、これは「妊み」が「実り」の象徴とされたものである。参詣者は糶、苗、飯を挙って拾い、持ち帰って五穀豊穰を祈る。</p>					
文書：			文献：増補英彦山		

No. 256	名 称	伊 方 ば や し		市町村名	方 城 町
芸能種別	風 流 ⑥	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川郡方城町伊方赤坂八幡宮		伝承組織	社会福祉法人方城町社会福祉協議会、郷土芸能保存会	
上演場所	方城町大字伊方字宮の脇 赤坂八幡宮		上演期日	新暦5月5、6日	
<p>《芸能の概要》 このおはやしは、動の力強いはやし5曲、情緒をそそる静かなはやし10曲の二通りに別れており、笛、大太鼓、大鉦、小太鼓、小鉦、竹で構成されている。</p>					
文書：			文献：方城町誌		

No. 257	名 称	大 内 田 神 楽		市町村名	赤 村
芸能種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川郡赤村大内田		伝承組織	大内田神楽保存会	
上演場所	田川郡赤村大内田		上演期日	新暦4月28日	
<p>《芸能の概要》 大祖神社の神楽講で300年前から継承されている。当日は夜神楽が行われ、素朴な舞いと躍動的な鬼の舞いがうまく調和されている。</p>					
文書：			文献：		

No. 258	名 称	光 明 八 幡 神 幸 祭		市町村名	赤 村
芸能種別	風 流 ④	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	田川郡赤村上赤		伝承組織	上赤区	
上演場所	田川郡赤村上赤		上演期日	新暦5月4、5日	
<p>《芸能の概要》 約200年前から続いている鎮守の祭りで、カネとタイコと稚児のきやり音頭でのぼり山（山車）が練り歩き、里人の多幸を祈願する。</p>					
文書：			文献：		

No. 259	名 称	等覚寺の松会		市町村名	苅田町
芸態種別	田 楽	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.	
伝 承 地	京都郡苅田町大字山口字白山3035番地		伝承組織	松会保存会	
上演場所	白山多賀神社境内		上演期日	新暦4月第3日曜日	
<p>《芸能の概要》 松会は天下大平、国土安全、五穀成熟を祈願する祭礼で、白山多賀神社に残っている。神幸行事を中心に行われるもので、その中にノ下ろし及び幣はぎ、柱起こし及び坪草打ち・綱打ち・盛一臈御座・塩会・祭礼・幣切り・薙刀舞・獅子舞・種蒔き・おとんぼし・田打ち・田植・はらみ女があり、昔の伝統をふまえて続けられている。</p>					
文書：			文献：等覚寺の松会		

No. 260	名 称	苅田山笠		市町村名	苅田町
芸態種別	風 流 ④	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.	
伝 承 地	京都郡苅田町大字馬場411 字原神社		伝承組織	苅田山笠保存会	
上演場所	苅田町富久町1-19-1		上演期日	新暦10月第1日曜日	
<p>《芸能の概要》 「宇原神社縁起」には嘉吉2年(1442)に古宮所の浮殿に神輿で神幸され、氏子の村々からは笠鉾を出し、慶長2年(1597)に鉾山を出すに至ったと記されている。秋季大祭で氏子14区の人達が鉾山14基を連ね、初日から鉾おろし、提灯山、連歌奉納祭、幟山笠、神幸祭、当场渡しの順で行われる。一名喧嘩山笠として名物である。</p>					
文書：			文献：		

No. 261	名 称	上高屋神楽		市町村名	犀川町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	京都郡犀川町大字上高屋		伝承組織	上高屋神楽保存会	
上演場所	橋神社		上演期日	新暦4月28日	
<p>《芸能の概要》 岩戸神楽を継承し、神楽舞は、米散、折居、御福、手草、地割、ノ切、盆神楽、三本剣、綱御先、四方鬼、弓神楽、岩戸神楽で締めくくる。 この他、同様の神楽に横瀬神楽、下伊良原神楽、上伊良原神楽、帆柱神楽、燈畑子供神楽がある。</p>					
文書：			文献：		

No. 262	名 称	豊 国 楽	市町村名	犀 川 町
芸態種別	風 流 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No
伝 承 地	京都郡犀川町大字下伊良原	伝承組織		
上演場所	下伊良原 高木神社	上演期日	新暦5月4、5日	
<p>《芸能の概要》 子供を中心に白装束にタスキ姿で氏子の家を回り、お旅所まで行進する。笛、太鼓、カネのある楽である。生立八幡宮祭に奉納された楽で、後になって曳山ができたので楽が不要になり、高木神社に譲り受けたものである。 上伊良原でも同様の芸能が行われる。</p>				
文書：		文献：		

No. 263	名 称	生立八幡宮神幸祭	市町村名	犀 川 町
芸態種別	風 流 ④	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No
伝 承 地	京都郡犀川町大字生立7番地 生立八幡宮	伝承組織	生立八幡宮氏子会	
上演場所	生立八幡宮境内	上演期日	5月の第2日曜日を最終日	
<p>《芸能の概要》 毎年5月の第2日曜日を最終日とし、3日間夏期大祭が行われる。初日は姥ヶ懐の潮井とり、潮かきの行事、2日目は親車(山車)2基、かき山6基が同神社の馬場に勢揃いし、神輿、神馬を先頭に大村区内の三諸神社に神幸した後、同夜から3日目早暁まで岩戸神楽を奉納する。</p>				
文書：		文献：		

No. 264	名 称	上久保獅子舞	市町村名	勝 山 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No
伝 承 地	京都郡勝山町大久保(上久保)	伝承組織	上久保区	
上演場所	大原八幡神社境内	上演期日	新暦4月第1土曜、日曜日	
<p>《芸能の概要》 獅子舞は舞うことによって祓を行うことを最も重要な目的としたもので、祭の時御輿の渡行にあたり、まず獅子舞をして後に出発する習わしになっている。悪魔を退散させる威力がある霊獣の祓として受け継がれ、他地方の舞いと違い格式高く、神事以外では行うことがない。獅子頭は、猪や鹿などの獣類をあらわしているといわれるが、大原八幡神社の獅子の場合、雄獅子と雌獅子の別があり、それぞれ赤色、黒色で区別され、雄獅子のたくましさと雌獅子のやさしさがよく調和している。</p>				
文書：		文献：		

No. 268	名 称	岩 丸 神 楽	市町村名	椎 田 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.
伝 承 地	築上郡椎田町大字岩丸		伝承組織	岩丸神楽講
上演場所	上・下岩丸公民館	上演期日	新暦5月5日	
<p>《芸能の概要》 御撒米神楽、小神楽、岩戸開神楽など33番の演目がある。笛、太鼓、鉦（チャンカラ）で演奏し、舞い手は素面または鬼面をつけ、扇・刀・笹・幣などを使用して舞う。</p> <p>この他に、同様の神楽として小原神楽、湊神楽がある。</p>				
文書：		文献：		

No. 269	名 称	巫 女 舞	市町村名	椎 田 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.
伝 承 地	築上郡椎田町大字西八田		伝承組織	
上演場所	西八田 正八幡神社境内	上演期日	新暦5月10日、9月27日	
<p>《芸能の概要》 5月は神幸祭、9月は秋祭りの中で行われる。笛、太鼓、鉦にあわせて巫女が舞う。</p>				
文書：		文献：		

No. 270	名 称	田 楽 ・ お 田 植 祭	市町村名	椎 田 町
芸態種別	田 楽	指定年月日	(未)	詳細調査No.
伝 承 地	築上郡椎田町大字湊		伝承組織	金富神社氏子
上演場所	椎田町湊の海辺	上演期日	新暦5月18日に近い日曜日	
<p>《芸能の概要》 お田植祭りの前日は神幸で、山車が出る。当日は神事後、54本のシデを参拝者に配る。貰ったシデは田の水口に立てたり、家の戸口に立てたりして豊作祈願をする。笛、太鼓、鉦で奏する。</p>				
文書：		文献：		

No. 274	名 称	細男舞・神相撲		市町村名	吉 富 町
芸態種別	舞台・渡来芸②	指定年月日	(国)昭56. 1.11	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡吉富町大字小犬丸		伝承組織	細男舞(神相撲)保存会	
上演場所	八幡古表神社内神舞殿及び海上(沖合約4km)		上演期日	新暦8月6日か7日、潮時の都合で11日(4年に1度)	
<p>《芸能の概要》 宇佐八幡宮の放生会に和間ノ浜の頓宮で、船上から傀儡子を舞わし慰める行事があり、八幡古表神社と中津市の古要人社から二艘の奉仕があった。傀儡子は相撲人形22体、御舞人形20体、四本柱人形4体、行司人形1体が残されており、神舞殿において太鼓、笛、バチの囃子にあわせ十番の神舞が行われる。ついで四本柱を守る四太夫・行司が出演し、勝ち抜き戦で相撲が始まる。4年に1度、海上(放生会)御渡祭があり、神相撲が行われる。</p>					
文書：			文献：八幡古表神社の傀儡子		

No. 275	名 称	御 神 幸		市町村名	吉 富 町
芸態種別	風 流 ⑤	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡吉富町大字小犬丸353番地 八幡表神社		伝承組織	お囃子保存会	
上演場所	古表神社～事比羅神幸場～皇后石元宮～古表神社		上演期日	新暦9月21日	
<p>《芸能の概要》 神社で祭典の後神幸を行う。10基の傘鉾ごとに笛、鐘、太鼓のお囃子方が十数人つき、幡物等6本の行列である。神幸場においてお囃子方競演会巫女神楽が行われる。曲目は宮入り、道囃子、巫女神楽は浦安の舞である。</p>					
文書：			文献：吉富町の文化財		

No. 276	名 称	赤 幡 神 楽		市町村名	築 城 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(県)昭51. 4. 24	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡築城町大字赤幡 赤幡八幡神社		伝承組織	赤幡神楽座	
上演場所	赤幡八幡神社		上演期日		
<p>《芸能の概要》 この神楽は旧築上郡十六社によって構成され、各社に奉納されてきた。明治になり社家神楽が自然廃止になりかかった時に、赤幡八幡の氏子有志に伝授したものが現在に伝わっている。式神楽・特種神楽あわせて20番残されているが、出雲系統の岩戸神楽を中心に、湯立・太神楽等多種にわたっている。式神楽は、散米、折居・御福・手草・地割・神宣の舞上・御先・花・四方鬼・戸前があり、特種神楽には湯立・神迎・綱御先・三神・美須伝・四角手・盆・大蛇・綱切・一人舞がある。</p>					
文書：			文献：福岡県の民俗芸能		

No. 277	名 称	寒 田 神 楽		市町村名	築 城 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(県)昭52. 4. 9	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡築城町大字寒田		伝承組織	寒田神楽保存会	
上演場所	山霊神社		上演期日	新暦5月5、6日、10月2、3日	
<p>《芸能の概要》 この神楽の伝承は明らかではないが、寛文四年(1664)、元禄十年(1697) 銘の面が残されている。神楽は出雲系統のものであるが、秋の鎮火祭には湯立神楽が舞われる。中央に釜をおき猿田彦が探湯を行うこと、長い太竹の鉾先端の幣をよじのぼってきりおとすことによって、天孫降臨臨の先駆として認める舞があり、舞庭を使用する大がかりなものが伝えられている。また「御先駆」の猿田彦がもつ杖(玉鉾)の両先端にシデ(紙飾)をつけること等、古い信仰形態が残されている。はやしは大太鼓、銅拍子、笛である。</p>					
文書：			文献：福岡県の民俗芸能		

No. 278	名 称	岩戸見神社椋原神楽講		市町村名	築 城 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	岩戸見神社椋原		伝承組織	氏子	
上演場所	築上郡築城町大字椋原公民館		上演期日	新暦5月4、5日	
<p>《芸能の概要》 毎年5月4、5日の岩戸見神社神幸祭で岩戸神楽の奉納を行っている。4日には、祭典、道囃子、お着きの神楽、夜神楽を催し、翌日はお立ちの神楽、道囃子で神輿のお供を行っている。</p>					
文書：			文献：		

No. 279	名 称	岩戸見神社岩戸神楽・岩戸楽		市町村名	築 城 町
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡築城町大字伝法寺		伝承組織	岩戸見神社岩戸神楽岩戸楽保存会	
上演場所	上城井地区各氏神様4社		上演期日	新暦5月3、4日	
<p>《芸能の概要》 築城町大字伝法寺の岩戸見神社が本宮で各町内会に末社が4社あり、5月3、4日の神幸祭にお旅所で夜神楽と岩戸楽を奉納し、神様のお供をする事に始まる。</p>					
文書：			文献：		

No. 280	名 称	満田神社楽打舞		市町村名	築 城 町
芸態種別	風 流 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	築上町築城町安武		伝承組織	満田神社楽打保存会	
上演場所	築上郡築城町安武満田神社及び御旅所		上演期日	新暦5月3、4日	
《芸能の概要》 楽は内楽6名、カネ打3名及び子供等数十名により外楽を舞う。					
文書：			文献：		

No. 281	名 称	成 恒 か ぐ ら		市町村名	新吉富村
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No.	
伝 承 地	築上郡新吉富町大字成恒		伝承組織	成恒かぐら保存会	
上演場所	成恒吉富神社、大ノ瀬、八ツ並両貴舟神社		上演期日	新暦10月18～20日頃	
《芸能の概要》 五穀豊穡、無病息災などを祈る民間神事芸能として明治20年頃から伝えられる。神楽ばやしは笛、太鼓、うちがねにより、舞の構成は礼、うちかけ、さゆり、おりやなぎ、ほう、舞納めからなる。豊前地方に伝わる神楽の中でも陰と陽のうち陽を主体とした力強い舞がこの神楽の特徴である。主な演目には、式神楽・神迎・大蛇退治・綱御先・本地割・四人剣・乱御先・三神・盆・剣・御先・二人手笛・湯立などがある。					
文書：			文献：新吉富村村史		

No. 282	名 称	東上八社神社神楽 (友枝神楽)		市町村名	太 平 村
芸態種別	神 楽 ①	指定年月日	(未)	詳細調査No. 32	
伝 承 地	築上郡大平村大字東上		伝承組織	大平村友枝神楽組 (講)	
上演場所	築上郡大平村大字東上 八社神社境内		上演期日	新暦11月26日	
《芸能の概要》 この神楽は式神楽と奉納神楽の種目に分けられ、神殿や神庭にて舞う。演目の数は33神楽と呼ばれ、奉幣、大麻舞、一人手草、二人手草、切麻舞、弓征護、御先 (駆仙)、地割、宝満、掛手草、三神 (餅神楽)、御式舞 (米神楽)、剣舞、大神、四人方剣、御子舞、乱御先、引入柴、美々久、綱御先、大蛇退治、神迎 (道神楽)、22～33は天の岩戸開神楽である湯立神楽 (官瑞、御先、一国一久、鎮火、火通り) から構成されている。					
文書：			文献：太平村誌		

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年度 3	登録番号 18

福岡県の民俗芸能
— 福岡県民俗芸能緊急調査報告書 —

平成4年3月31日

発行 福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園7番7号
印刷 (株)アークマウントコーポレーション
北九州市小倉南区沼南町3丁目10-5